

保育内容の充実を図る 園内研究のあり方



平成29年3月

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

全国の国立大学附属幼稚園における教育実践研究を紹介するために、リーフレットを毎年発行してきました。本年度は、「保育内容の充実を図る園内研究のあり方」のテーマのもとに、6園の研究事例を掲載し、園内の研究方法についての提案を行っております。

国立大学附属幼稚園の使命の一つが、幼児教育の質の向上に貢献することです。そのためには、各園で研究を行い、その成果を発信する必要があります。今まで、附属幼稚園では、子どもの遊び、生活、環境を通じた教育を大切に、実践してきました。現在、その質の高い実践を基盤にしたうえで、幼児期において育みたい資質・能力の明確化、幼児教育の質を評価する指標などの具体的な調査研究が要請されています。しかも、「エビデンス」(根拠・証拠)に基づいて応えなければなりません。それは、限られた財源の中から幼児教育への財政・予算を確保するためには、誰もが納得できる実証的な根拠が求められているからです。

今こそ、全国の幼児教育関係者が「連携」「協働」して、研究成果をまとめて、発信することが必要です。本リーフレットが広く活用されることを切に願っております。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

会長 大友 秀明

目次

発刊にあたって	2
「保育内容の充実を図る園内研究のあり方」について	3
● 記載事例	
『言葉を育む遊びの保育デザイン』を創造するために	山形大学附属幼稚園 …… 4
子どものこころがみえてきた	福島大学附属幼稚園 …… 5
幼児教育を可視化する園内研究	神戸大学附属幼稚園 …… 6
実践力向上につながる園内研究のあり方	愛媛大学教育学部附属幼稚園 …… 7
語りあい、学びあい、つながりあう	大分大学教育学部附属幼稚園 …… 8
いろいろな遊びや活動を通して、かかわる力の育みをとらえる	宮崎大学教育学部附属幼稚園 …… 9
● コラム	
保育実践の質は園内研究の質に決定づけられる	10
● 全国国立大学附属幼稚園平成29年度研究テーマ一覧	11

「保育内容の充実を図る園内研究のあり方」について

保育実践の本質は子どもと保育者の関係の中にあり、「保育の質」は日々の実践の中で作り出される「保育者-子ども関係」の質に規定されます。つまり、「質の高い幼児教育」は「保育者-子ども関係」の質を高めることによって可能になるのですが、それは保育者の個人的努力だけで実現するものではありません。子どもとの間につくり出される関係性は、保育者のセンスや能力に規定される部分を多く含み、それを自分自身で省察することには困難を伴うからです。個々の保育者の努力は、「研究しあう保育者集団」の中に位置づけられる必要があるのです。

このリーフレットには、「保育内容の充実を図る園内研究のあり方」を求めて努力を重ねてきた国立大学附属幼稚園の実践が掲載されています。こうした事例を参考に、「研究方法の豊かな研究」が展開されることを期待します。

記載事例の概要

『言葉を育む遊びの保育デザイン』を創造するために

- 研究テーマ「幼児期に育てたい言葉」を追究していくために、保育者個人レベルの事例収集、保育者集団レベルでの「コトバタ会議」（事例検討）、大学・他校種と研究交流レベル（研究協議会）の三つのレベルから総合的に取り組んでいる
- 保育環境のチェックや保育課題に基づく保育ディスカッションなどをトータルで構築し、日々の保育の充実＝園内研究の充実を第一に、保育者集団として、保育の質が担保・継承されるようにしている

(山形大学附属幼稚園)

子どものころがみえてきた ～学びの物語の手法を取り入れた園内研修～

- 学びの物語の5つの視点（関心をもつ、熱中する、困難や不確実なことに取り組む、コミュニケーションする、責任ある行動をする）から、遊びのエピソード記録を分析し、幼児の非認知的な能力や個々のよさをとらえる
- 記録→意見交換→成果や課題の共有→実践のサイクルの中で、各保育者の保育力を向上させることが、園全体の保育力の向上につながる

(福島大学附属幼稚園)

幼児教育を可視化する園内研究

- 「幼児の自発的な活動としての遊びを通じた教育」の重要性を広く一般の方々にも理解してもらえるように、園内研究の取組を通じて幼児教育の可視化を推進している
- 幼児教育の可視化の手段として、詳細な観点を明確にもってカリキュラムの編成、改善をし続けること、ドキュメンテーションや実践記録にまとめること、それらを保育者集団で検討し学び合うことを通じて資質向上を図っている

(神戸大学附属幼稚園)

実践力向上につながる園内研究のあり方

- 子どもの「豊かな学び」に向けて大切にしたいこととして、「個の充実」と「かかわりの充実」という二つの視点から探る
- 「個の充実」に向けては、それぞれの遊びにおける指標「学びの姿」を作成。「かかわりの充実」に向けては、かかわりにおける指標「かかわりの姿と援助のポイント」を作成し、保育の見える化を図る
- 指標を活用しながら、日々の保育を構想・実践し、教師同士で評価・改善を積み重ねることで、子どもの実態や援助を共有することにつながる

(愛媛大学教育学部附属幼稚園)

語りあい、学びあい、つながりあう

- 「理論と実践の往還」を意識し、充実した研究
- 子どもの様子や遊びの事例を起点にし、多様な視点から子ども理解を深め、実践や研究の根底となる「子ども理解・保育ディスカッション」「保育カンファレンス」
- 大学教員と連携した「園内研究」や県内の教育・保育者との「保育を語る会」「保育研究協議会」

(大分大学教育学部附属幼稚園)

いろいろな遊びや活動を通して、 かかわる力の育みをとらえる

- 本園でのかかわる力のとらえ方：人やもの、自然に触れ合い積極的に活動に取り組む力
- 運動遊びやわらべうた遊び、コミュニケーションスキル活動を通じた「かかわる力」の育み
- 子どもと教師の信頼関係を基盤にし、その中でこそ「かかわる力」を発揮する子どもの姿

(宮崎大学教育学部附属幼稚園)

『言葉を育む遊びの保育デザイン』を創造するために

本園の研究主題「幼児期に育てたい言葉～遊びの保育デザインの創造～」に関わる園内研究は、保育者個人レベル(点)から保育者集団レベル(線・面・立体・体感)へ、そして大学や他校種研究交流レベルによる多面的な視点をトータルに構成したシステムとなっている。

保育者個人レベルでは、子どもとの対話的な関係を大切にしながら実践の「エピソード記録」を蓄積している。保育者集団レベルでは、大きく4点①エピソード記録の分析を行う「コトバタ会議」、②全学年の保育の方向性について共通理解を図る「保育ディスカッション」、園内環境の見直しと再構成を行う「園環境ワーク」、③読育環境の改善と創造「絵本環境充実プロジェクト」に取り組んでいる。さらに大学や他校種の教員との研究交流による多面的な考察を踏まえ、研究成果を総合的に教育課程「言葉を育む遊びの保育デザイン」の創造へとつなげている。



子どものころがみえてきた ~学びの物語の手法を取り入れた園内研修~

本園では、遊びのエピソード記録から職員同士の意見交換をもとに幼児の学びを見取り、次の保育につながることを数年前から行っている。学びの物語の五つの視点から記録を分析していくことは、幼児の非認知的な能力や個々のよさをとらえるうえで効果的であると考えている。昨年からは「ころが動く体が動く子どもを育てる」をテーマに、より「心」を重視した保育のあり方を目指している。

学びの物語の五つの視点からエピソード記録を考察し実践に生かしていく



関心をもつ



熱中する



困難や不確実なことに取り組む



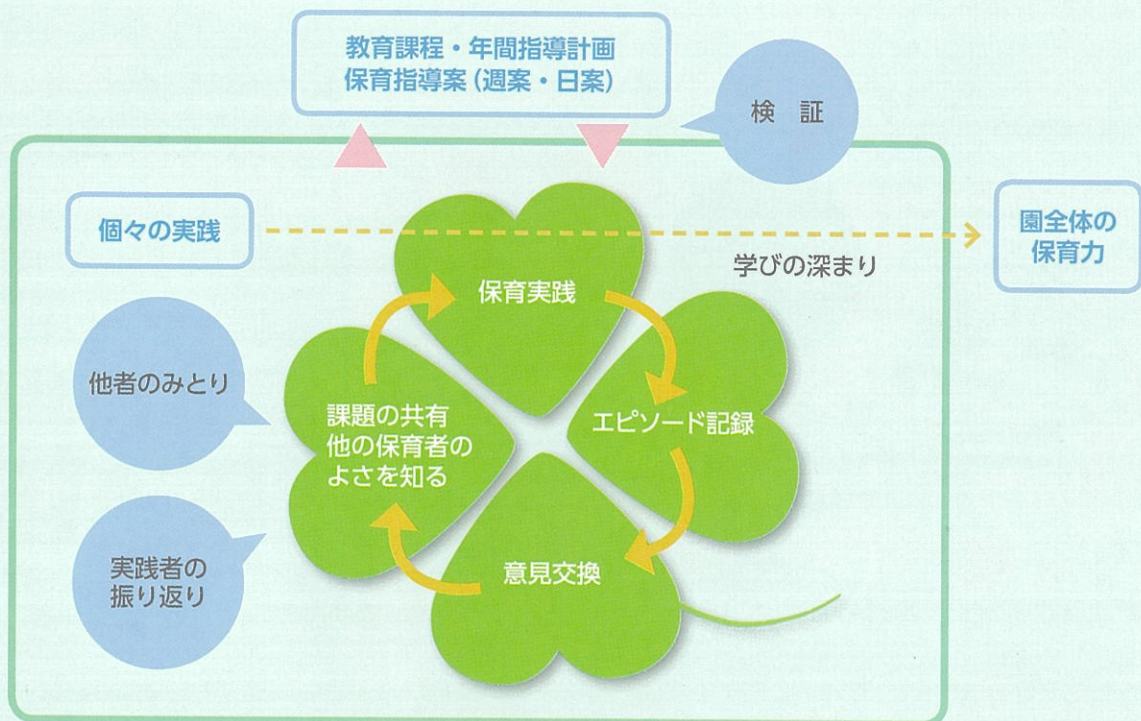
コミュニケーションする



五つの視点



責任ある行動をする

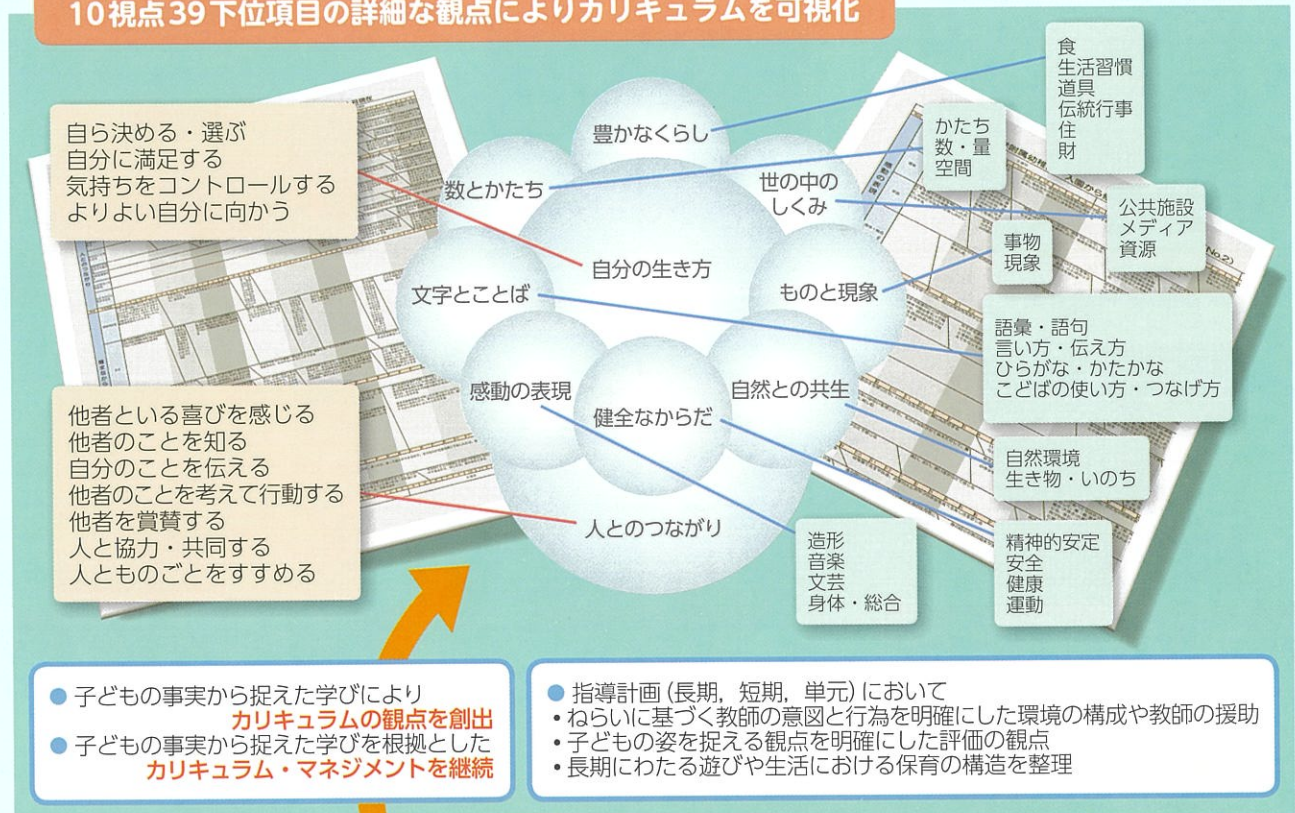


幼児教育を可視化する園内研究

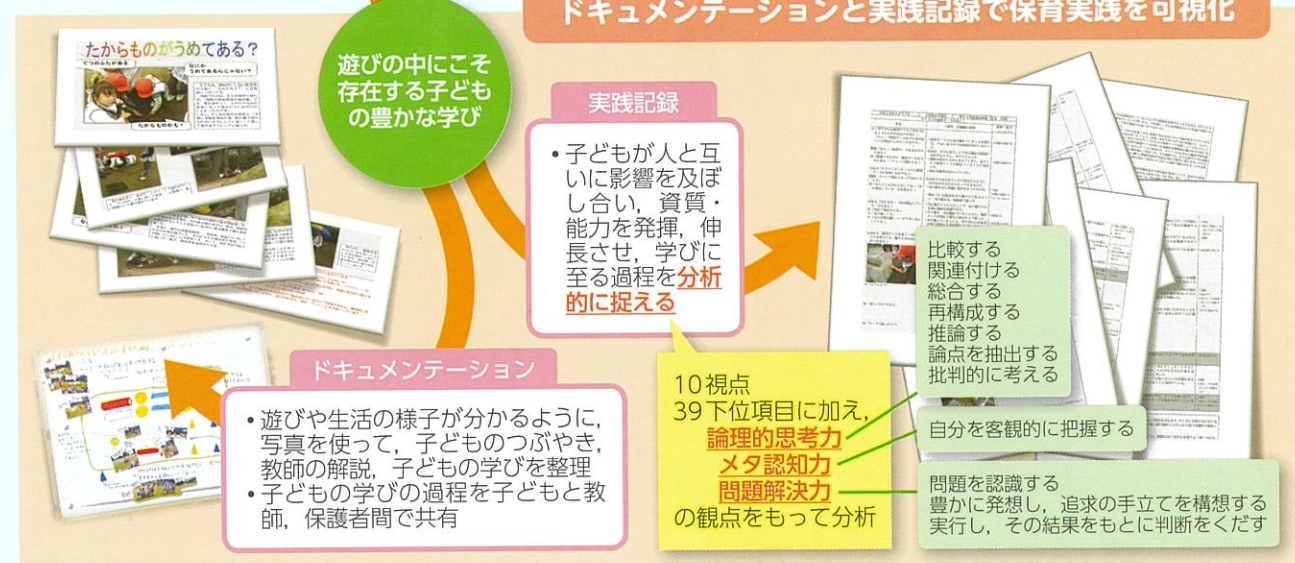
幼児教育に携わる我々の使命として、子どもたちのために、「幼児の自発的な活動としての遊びを通じた教育」の重要性を広く一般の方々にも理解してもらえないようにしなければならないと考える。そのために、教師は、子どもが遊びや生活の中で獲得している様々な学びを自覚的に捉えなければならない。教師が子どもの学びを自覚的に捉えるためには言語化することが必要である。

本園では、遊びの中にこそ存在する豊かな学びを明確に捉えることを教育・研究の出発点とし、カリキュラムの開発と改善を繰り返している。そして、実践により見取った子どもの姿を、様々な手法を用いたドキュメンテーションや実践記録等を通じて発信している。

10視点39下位項目の詳細な観点によりカリキュラムを可視化



ドキュメンテーションと実践記録で保育実践を可視化



実践力向上につながる園内研究のあり方

もっと子どもの育ちを支えたい！ もっと確かな保育を展開したい！

研究主題の設定

平成25年度～平成27年度
子どもの豊かな学びを支える
—発達に即した援助の在り方—

主題の捉え

- 主題の共通理解
言葉にこだわって分析し、具体的でわかりやすく表現

「豊かな学び」とは？
子どもが、身の回りの様々なものとの主体的なかかわりを繰り返す中で、他者からの反応を受けてさらに心動かし、新たな自分を獲得していくこと

視点の明確化

研究の方法

- 具体的な指標作り
二つの視点から、さらに具体的な指標を作成する

「豊かな学び」に向けて
大切にしたいことは？

「個の充実」 「かかわりの充実」

保育の見える化

「個の充実」に向けて

【表1】「学びの姿」
→ それぞれの遊びにおける指標作り

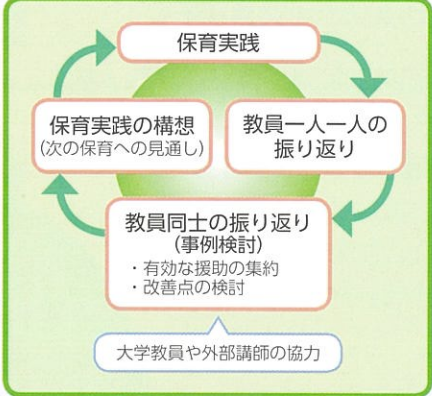
「かかわりの充実」に向けて

【表2】「かかわりの姿と援助のポイント」
→ かかわりにおける指標作り

- ・ 育ちの見通し
- ・ 子どもの見取り
- ・ 援助の方向性

実践・評価・改善

- 指標の活用
・ 保育の構想
・ 保育実践
・ 振り返り



研究のまとめ

- 指標を用いた成果

- ・ 子どもの実態の共有
- ・ 園全体での援助の共有
- ・ 教員同士の保育観の交流
- ・ 本園の特色の再確認

次期研究へ

【表1】「学びの姿」
例：生き物とのかかわりにおける「学びの姿」

観察	活動の様子と教師の反応・援助
A 学びの姿の出現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前に触れる生き物の動きや動きに興味を持つ。 ○ かかかったり、踏またりする。 ○ 顔を近づけたり見つめたりする。 ○ 自分なりに言葉や感じを表現する。 ○ 手を触れたい。 ○ 言葉をなげける。 ○ 驚く様子や、笑顔をしながら遊ぶ。
B 学びの姿の出現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察カードに入った生き物を観察する。 ○ 生き物の名前を呼ぶ。 ○ 見た生き物について話をしようとする。 ○ 見た生き物について話や質問で遊びたい様子を見せる。 ○ 自分なりに話をしようとする。 ○ いろいろな言葉や表現を使う。 ○ ふんふんやんやんと言葉を繰り返す。 ○ 動物の目線に合った言葉や表現で遊ぶ。
C 学びの姿の出現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察に必要なことを知る。 ○ 観察の仕方や方法について話をしようとする。 ○ 色や音について話をする。 ○ その生き物の名前や名前を知ると。 ○ 観察カード、その生き物の名前を指差して話をする。 ○ 名前や年齢など、その生き物の生活について話をする。 ○ 生き物と関わりたい様子を見せる。 ○ 生き物に触れたい様子を見せる。 ○ 生き物の名前や名前を話をする。 ○ 動物の目線に合った言葉や表現で遊ぶ。 ○ 生き物と関わりたい様子を見せる。 ○ 生き物に触れたい様子を見せる。 ○ 動物の目線に合った言葉や表現で遊ぶ。 ○ 動物の目線に合った言葉や表現で遊ぶ。 ○ 動物の目線に合った言葉や表現で遊ぶ。

子どもの姿を記入し援助を探っていく

それぞれの遊びごとに「学びの姿」を作成

遊びにはどのような学びがあるの？

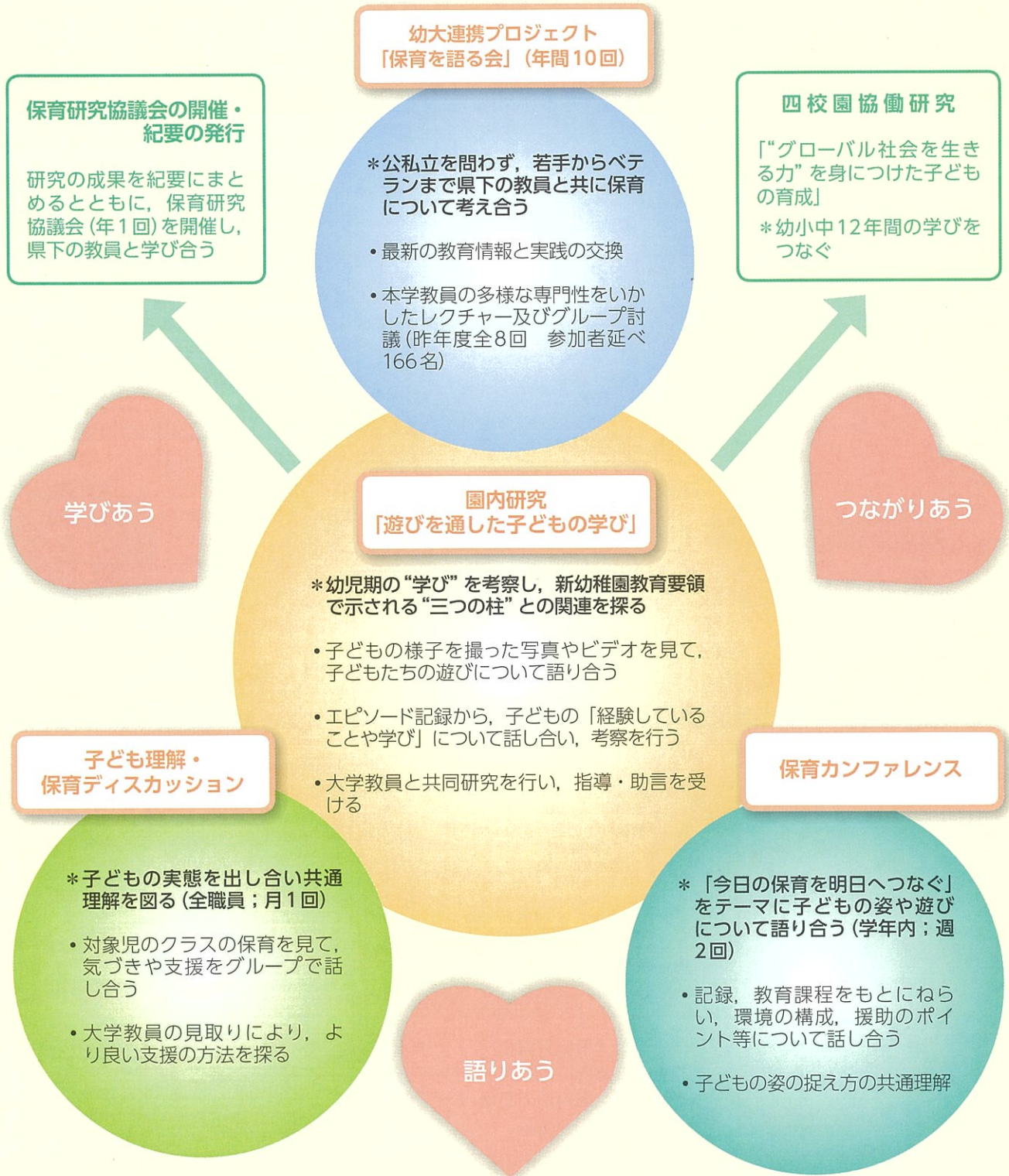
どのようなかかわりを保障すればいいの？

【表2】「かかわりの姿と援助のポイント」

観察	援助のポイント
観察1 状況下での様子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状況を把握し、観察の方向性を決定する。 ○ 観察の目的や目的を明確にする。 ○ 観察の場を確保し、観察の時間を確保する。 ○ 観察の場を整え、観察の準備を完了させる。
観察2 観察の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察の目的を明確にする。 ○ 観察の目的を明確にする。 ○ 観察の目的を明確にする。
観察3 観察の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察の方法を明確にする。 ○ 観察の方法を明確にする。 ○ 観察の方法を明確にする。
観察4 観察の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察の結果を明確にする。 ○ 観察の結果を明確にする。 ○ 観察の結果を明確にする。

語りあい、学びあい、つながりあう

本園の教育目標は、「ゆたかに生きる子ども」を育成することである。そのために私たちが求められていることは、質の高い保育の実践であり、子どもの遊びから見えることを見取り、子どもを理解した上で環境を構成し、保育を行っていくことだと思われる。そのために研究はあり、研究を進める上で大事なことは、理論と実践であると考えている。そこで、園内研究を充実させるとともに、研究を支え、相互に関連しあう研修を以下のように設定し、実施している。



いろいろな遊びや活動を通して、かかわる力の育みをとらえる

本園では、「かかわる力」「考える力」「表現する力」を育むことの重要性を考慮して教育課程に位置付け保育を行っている。その中でも特に、全ての活動の取りかかりとなる「かかわる力」の育成が大切であると考え、平成17年度から「かかわる力を育むための援助の在り方」をテーマに研究に取り組んでいる。そこで、運動遊びやわらべうた遊び、コミュニケーションスキル活動の視点から研究した取組や成果を以下に紹介する。

本園でのかかわる力のとらえ方：人を信頼し、人やもの、自然に触れ合い積極的に活動に取り組む力

本園での保育カンファレンスは、担任や保育助手、養護教諭、教頭、園長が参加することで、各々の立場からの情報を得ることができるようにしている。本園で作成した保育カンファレンスのポイントをもとに話し合い、全員が発言しやすいように司会や記録を輪番で行っている。



子どもたちが好きな遊びの中で自分から「運動遊び」に向かうようになる援助の在り方を主な課題とし、丁寧に子どもたち本人の視点から内面を見取る事例研究を行った。その中で、友達を応援し喜びを共有したり、要領を教え合ったりしながら、友達との楽しいかかわりが増え、運動遊びへの意欲も高まることが分かった。

運動遊びに取り組みながらできるようになった喜びを分かち合う姿



「わらべうた遊び」を通して、どのように人と「かかわる力」が育まれるか、援助の在り方を事例をもとに研究した。並行して実技研修会を設け、歌い方や遊び方の共通理解を図った。歌いながら相手を見る、体を動かす、ルールを考える、役を交代するなどの要素が含まれ、遊びながら人とかかわる力や協調性、規範意識、とっさの判断力などの資質の育みが捉えられた。

わらべうた遊びでみんなで手をつないで笑顔になる姿



人とのかかわり方を全員に教える必要性を感じたために「コミュニケーションスキル活動」の研究に取り組むことにした。幼児期に身に付けてほしいスキルを系統的に明らかにし、具体的に教え、日常生活の中であたたかい言葉をかけ合う子どもたちを教師や保護者が認めることで定着化を図っている。

コミュニケーションスキル活動で友達にやさしい声をかけている姿

まとめ

子どものかかわる力を育てるためには、子どもが安心できる教師との信頼関係を作ることが何よりも大切であることが分かった。教師との安定した関係の中でこそ、子どもたちは「かかわる力」を発揮し、それと同時に、「考える力」「表現する力」も育まれることが確認できた。また、保育カンファレンスをする中で、一人一人の子どもを理解していくと、援助の方向性もとらえられる。このような園内研究を行いながら保育内容の充実を図っている。

保育実践の質は園内研究の質に決定づけられる

山梨大学
加藤 繁美 先生

保育の世界は「量の時代」から「質の時代」へ移行したと言われ、「保育の質」の向上が世界規模で論じられるようになってきましたが、実際に「保育の質」を目に見える形で向上させることは容易な営みではありません。それは何といても、「保育の質」が保育者と子どもの間に創りだされる「関係の質」に規定され、その「関係の質」が子どもの声に応答的・対話的に関わっていく保育者の「対話能力」によって決定づけられているからに他なりません。

重要なのはこの場合、子どもたちの発する多様な声(願い)に正しく応答していく唯一の方策などどこにも存在していない点にあります。そして、そうやって子どもの声に応答していく保育者の「対話能力」が、それぞれの保育者の経験に基づきながら形成された個人的能力として存在している点にあります。

つまり、保育実践は「子どもの主観性」と「保育者の主観性」との間に創られる「間主観的關係」を本質とする営みであり、それが故に、そうやって主観的要素を伴いながら展開される実践を一般化し、実践の事実の中に真実を見出していこうとすると、どうしても保育者集団の同僚性に裏づけられた、質の高い実践研究が必要になってくるのです。

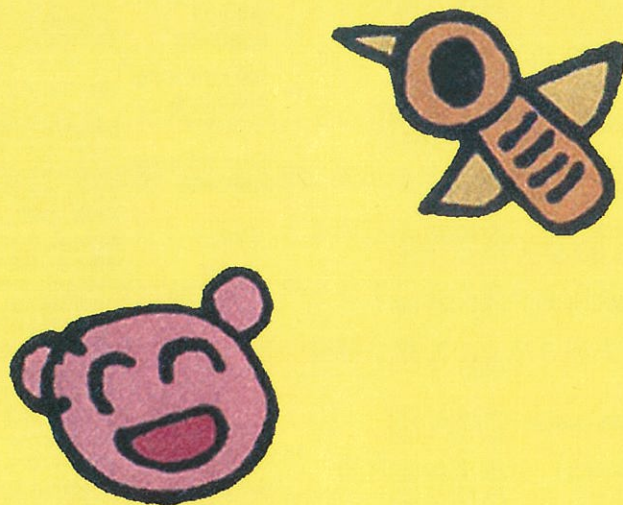
もちろん、そこで議論される中心的課題は、日常的に展開される保育実践が子どもの声にていねいに耳を傾け、子どもの声を正当に評価するものになっているかどうかという点にあるのですが、そうした議論を批判的・創造的に作りだしていくためには、「研究する実践家」にふさわしい知性と感性を相互に高めあい、愛情と信頼に基づいた相互批判を可能とする、質の高い専門家集団の形成が不可欠となっていくのです。そしてそのためにも、園内研究の質を高め、保育者の専門性を高めあっていく具体的方策を明らかにする研究が、保育実践の質を高める必要条件として位置づけられることになっていくのです。

平成29年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

平成29年3月現在

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
1 北海道教育大学附属旭川幼稚園	体験のつながりから遊びの広がりへ	29.10. 7 (土)
2 北海道教育大学附属函館幼稚園	円滑な幼小接続カリキュラムの制作	29.10. 7 (土) 予定
3 弘前大学教育学部附属幼稚園	幼児期の体づくり —多様な動きに注目して—	29.10. 6 (金)
4 岩手大学教育学部附属幼稚園	豊かな遊びを育む	29.10.14 (土)
5 宮城教育大学附属幼稚園	子どもが夢になって遊ぶ環境とその援助 —体を動かして遊ぶ— (3年次)	29.10.24 (火)
6 秋田大学教育文化学部附属幼稚園	3年保育の教育課程の再考 —幼児と共に作る生活—	29. 6.29 (木) 29.11.16 (木)
7 山形大学附属幼稚園	幼児期に育てたい言葉 (3年次) —「遊びの保育デザイン」を通して—	29. 6. 2 (金)
8 福島大学附属幼稚園	未定	29. 5.19 (金) 20 (土) 29.11.10 (金) 11 (土) 3歳児は (土) のみ公開
9 茨城大学教育学部附属幼稚園	未定	29.11.21 (火)
10 宇都宮大学教育学部附属幼稚園	よく遊び伸びる子を育むために —幼児の「もっとやりたい」に着目して—	29. 6.24 (土)
11 群馬大学教育学部附属幼稚園	幼児の遊びを豊かにする園庭	29. 6. 1 (木) 29.10.28 (土)
12 埼玉大学教育学部附属幼稚園	教育課程の具現化に向けて (2年次) —子どもの「やさしさ」を育てる保育—	29.11. 1 (水)
13 千葉大学教育学部附属幼稚園	遊びの物語を読み取る保育者 —対話的な学びから育ちを捉える—	29.10.28 (土) 30. 2.17 (土)
14 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎	試行錯誤する子どもと教師 (3年次)	29.11.24 (金)
東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎	学びを深める場をつくる	29.11.18 (土)
15 お茶の水女子大学附属幼稚園	子どもの内にある感受性を探る (2年次)	29. 6.23 (金) 30. 2. 9 (金)
16 山梨大学教育学部附属幼稚園	保育における子どもの声 (1年次) —対話する保育を目指して—	29. 6.24 (土) 29.12. 2 (土)
17 新潟大学教育学部附属幼稚園	新たな世界を創り出す子供をはぐくむ —「統合的な学び」の実現を通して—	29. 6. 1 (木)
18 富山大学人間発達科学部附属幼稚園	子どもの学びに着目した教育課程の再編	29. 6.22 (木)
19 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園	幼児期の教育における学びを探る —主体的・対話的な深い学びを促す環境の構成と教師の援助—	29. 6. 9 (金)
20 福井大学教育学部附属幼稚園	つながり合って遊ぶ子どもたち	29.11. 4 (土)
21 信州大学教育学部附属幼稚園	遊びにうちこむ子どもを支える援助のあり方	29.11.17 (金)
22 上越教育大学附属幼稚園	遊び込む子ども (2年次) —教育課程の創造—	29.10.11 (水)
23 静岡大学教育学部附属幼稚園	豊かな自然環境を活かした保育 (3年次)	29.11.15 (水)
24 愛知教育大学附属幼稚園	仲間を大切に子ども	29.11. 9 (木)
25 三重大学教育学部附属幼稚園	夢になって遊ぶ姿を支える教師の援助 —幼小接続を意識した3・4・5歳の学び—	30. 1.27 (土)

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
26 滋賀大学教育学部附属幼稚園	「わくわくの創造」 —3歳児からの学びをつなぐ教育課程—	29.11.17 (金)
27 京都教育大学附属幼稚園	「幼児の“探究力”を探る」 (2年次)	30. 1.27 (土)
28 大阪教育大学附属幼稚園	主体的に生活する子どもを育むための教育課程の創造 (2年次)	30. 2. 3 (土)
29 兵庫教育大学附属幼稚園	保育の質を高めるために —記録から幼児のよさを共有する—	29. 5.27 (土) 29.12. 2 (土)
30 神戸大学附属幼稚園	幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の充実	29.10.14 (土)
31 奈良教育大学附属幼稚園	「子どもたちの未来につながる楽しい保育の追求」	29.12. 2 (土)
32 奈良女子大学附属幼稚園	幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、同年齢や異年齢で協働的に探求を深め、多様な能力や個性的な才能を引き出す「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発	未定
33 鳥取大学附属幼稚園	子どもの「いま伸びる力」と「あと伸びる力」を育てる	29. 7.15 (土)
34 島根大学教育学部附属幼稚園	遊びこむ子どもを育てる	29.11.24 (金) 予定
35 岡山大学教育学部附属幼稚園	幼稚園教育と小学校教育の接続を図るための幼児期に生活していくために必要な習慣や学びに向かう力との関連性の検討を含めた「考える力」の育成を重視する教育課程および教育内容・指導方法の研究開発	29.11. 8 (水)
36 広島大学附属幼稚園	持続可能な社会の担い手となるために、その基盤となる態度や資質・能力を明らかにし、「自然とのつながり」と「人とのつながり」の直接体験を通してそれらを育成する幼児期の教育課程の研究開発 (2年次)	29.10.31 (火)
37 広島大学附属三原幼稚園	社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための幼小中一貫の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発 (第6年次)	29.12. 1 (金) 29.12. 2 (土)
38 山口大学教育学部附属幼稚園	幼小の学びをつなぐ 思考力の芽生えを育てる保育の創造	29.11.24 (金) 29.11.25 (土)
39 鳴門教育大学附属幼稚園	遊誘財から豊かな遊びを創り出すためにⅢ	29.11. 4 (土)
40 香川大学教育学部附属幼稚園坂出園舎	～つながる～子どもたちの生活を支えるⅢ	30. 1.26 (金) 予定
香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎	未定	30. 2. 2 (金) 予定
41 愛媛大学教育学部附属幼稚園	自己効力感が高まる遊びを探る —子どもの主体性を支え育ちをつなぐ保育の充実— (2年次)	30. 2. 2 (金) 30. 2. 3 (土)
42 高知大学教育学部附属幼稚園	よく考えて行動する子どもを育むための教育課程・指導計画	各学年1回 (4月のHPに掲載)
43 福岡教育大学附属幼稚園	身近な自然と豊かにかかわる力を育む	29.11.11 (土)
44 佐賀大学教育学部附属幼稚園	自然に支えられた保育	30. 2.18 (日)
45 長崎大学教育学部附属幼稚園	共感し合いながら友達とかかわり協同して遊ぶ子どもを目指して —夢中になる姿を追って—	29.11.11 (土)
46 熊本大学教育学部附属幼稚園	学びをつなぐ教育課程の創造 (3年次) —遊び込む子どもから自ら学ぶ子どもへ—	29.11.11 (土)
47 大分大学教育学部附属幼稚園	遊びを通した子どもの学び	30. 1.27 (土)
48 宮崎大学教育学部附属幼稚園	かかわる力を育てる援助の在り方	30. 2. 9 (金)
49 鹿児島大学教育学部附属幼稚園	遊びの中で育まれる子どもの学び —育ちのプロセスを可視化する実践を通して—	29.11.17 (金)



発 行

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

事 務 局

埼玉大学教育学部附属幼稚園

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤8-13-1
TEL 048-833-6288 FAX 048-831-2010
Eメール tkurihara@mail.saitama-u.ac.jp